



中学生短期交換留学報告

1月5日～15日

アスピンの思い出

木村彩乃

私は、アスペンに行ってきた皆さんの思い出ができました。

まずは、アスピンのたくさんの学校に行きました。ミドルスクール、カントリデースクール、コミュニティスクール、そして、高校などにも行きました。私は、2年前に私の家にホームステイしていたマイケルには会えなかったけれど、一番仲が良かったベロニカに再会できて、本当にうれしかったです。全ての学校の子たちがみんな優しく、たくさんの思い出ができました。

二つ目は、アーリーと、忘れられない思い出をつくれたことです。一緒にプール、ス



キー、スノーモービルなどをやったり、ソフィアの家でお泊りをして、ダンスをやったり、クッキーを作ったりなど、毎日が大切な思い出になりました。家族の人たちもとても優しく、すごく親切にしてくれました。

私は、今回このような、とても貴重な体験ができてすごくいろんな学習ができて本当によかったです。別れるときにアーリーと、もう一度アスペンに行く約束したので、絶対に、アスペンに行つて再会したいと思います。

私たちは、日本人とアメリカ人ということ、言葉は通じづらかったけれど、心がしつかり通じていたので、とても良い思い出になりました。アーリーとアーリーの家族、そしてアスピンの人たち、この交流に関係してくれた全ての皆さんに感謝しています。本当にありがとうございます。

アスペン

鈴木綾華

私は8日間アメリカコロラド州にあるアスペンに滞在してきました。

最初に空港に着いたときに



ハリエットの家族が温かく迎えてくれたので嬉しかったです。

私がアスペンに行つて楽しかったことはいっぱいありますが、そのうちの二つを書きたいと思います。

一つ目はハリエットとアナと買い物をした後にお泊りをしたことです。

服とかお土産とか買ってとても楽しかったです。英語で少しかだけ話をするのもできました。気持ちを通じた気がして嬉しかったです。ハリエットもアナも私のおかしな英語を一生懸命聞いてわかってもらってくれました。とてもとっても嬉しかったです。

二つ目は、コミュニティスクールでブルームボールをしたことです。

ブルームボールはアイスホッケーのほうきバージョンの遊びです。アイスリンクがツルツルでたくさんこけてしまったけど、アスペンの子たちがやり方を教えてくれたので、楽しむことができました。

今回、アスペンでは、言葉が通じなくても笑顔でいたら何とかなるということ学びました。だから、これからも、言葉が通じなくて困ったときでも笑顔を絶やさないようにします。

今回は、大変貴重な体験をさせていただいたと思っています。本当にありがとうございます。

アスペン

高桑優奈

1月5日、私はアスペンに行きました。

私は、10月に私の家にホームステイしたソフィアという子の家にホームステイしました。アスペンには8日間滞在しました。アスペンは、3,000メートルを超すところにあつたのですごく息苦しくなりました。

アスペンで一番思い出になったことがあります。それは、彩乃がホームステイして



いたアーリーという子のお父さんのレストランへアーリーと彩乃と私とソフィアで行ったことです。レストランには、スノーモービルで行きました。初めはソフィアと私が行きました。モービルに乗っているときの景色は、真つ暗で何も見えませんでした。レストランに着いてからソフィアといういろいろな話をしていました。でも、一向にアーリーと彩乃が来ませんでした。そして、私たちが着いてから約30分後によく二人が来ました。すると彩乃が泣いて私に、「スリッパした。」と言ってきたので、まず、慰めました。

その後、ごはんを食べてからみんなでのんびりしていたとき、パインマウンテンという動物が入ってきました。パ

インマウンテンというのは、ネコとキツネがまざったような動物です。大きさも、ネコとキツネの間ぐらいの大きさです。色はキツネのようでした。パインマウンテンは私たちを見てびっくりし、どこに逃げようかと迷っているようでした。でも、私たちの方もびっくりして、みんな、キャーッと言いました。パインマウンテンは、みんなでスキーをした水曜日になって見つかりました。とてもこわかったです。

私は、アスペンに行ってみて、言葉は通じなくても心は通じるということがわかりました。また、アスペンに行きたいです。

このような、機会を私たちに与えてくれた村の皆さんに感謝をします。

ありがとうございました。

アスペン

長瀬大翔

1月5日に僕はアスペンに向かいました。飛行機がすごく長くて疲れました。でも、アスペンの空港に着いたときに、アスペン生が「Welcome (ウエルカム)」と書いた紙で迎えてくれて、うれ

しかったんです。楽しかったことは二つあります。

一つ目は、スノーマスでスキーをしたことです。アスペン生と日本の子とでスキーをしました。特に楽しかったのは、ジャンプしたことです。アスペンのみんなは慣れていて、すごく高くジャンプをしていてすごいと思いました。僕は、ちょっとだけ飛んでみたけど怖くてだめでした。スノーマスのスキー場は広くて楽しかったです。

二つ目は、買い物です。理由は、日本とは違うお菓子や食べ物などが買えたからです。僕が一番、アスペンでおいしいと思ったお菓子は「マーブルチョコ」です。日本とは大きさが違いました。厚みがあつて、まるでそろばんの玉のような形をしています。



た。甘くておいしかったです。アスペンで一番おいしいかったのは、「サンドイッチ」です。中に野菜、ビーフが入っていてすごくおいしかったです。僕が食べたのは、ハンバーガーのようなパンに、照り焼きのような味のサンドイッチでした。あたたかくて、僕の好きな味でした。

最後に、僕は、アスペンでいい経験をする事ができました。英語がよくわからなくても、自分がなんとか相手に伝えようとがんばってそれが伝わったとき、うれしかったです。自分の気持ちや考えが相手に伝わらないという経験は、この先日本でもあると思います。そんなときでも、相手に自分の気持ちや考えを伝えることができるようにがんばっていきたいと思います。

アスペンでの経験を、今後も生かせるようにがんばります。こういう機会をつくっていただき、本当にありがとうございました。占冠村の皆さんに感謝しています。

アスペンでの思い出

堀井大地

僕は、アスペンへ行って来て、いろんな思い出を作った。

きました。アスペンでは三つの学校を訪問してきました。ミドルスクール、コミュニティスクール、カントリディスクールの学校に行ってきました。

ミドルスクールは、一番大きい学校で、生徒数もすごく多かったです。

次にコミュニティスクールでは、着くとすぐに昼食の時間になっていました。昼食の時間が終わったら、ブルーンボールという遊びをしました。足元が氷になっていたので、けっこう滑りました。なかなか思うようにゴールすることができませんでした。ブルーンボールの後にアスペン生と一緒にホットチョコレートを飲みました。寒かったので、とってもおいしかったです。



次に、カントリーデイスクールでは、音楽の授業に参加しました。「雨、雨、降り降り、母さんが」の歌詞を英語に直していく授業でした。けっこう難しかったです。でも、予想以上に歌いやすい歌詞が完成したので、すごいと思いました。

また、ホストファミリーは、僕にとっても優しくしてくれたのでうれしかったです。英語は、少しぐらいしか通じなかつたけど、ジェスチャーでかなり通じました。僕は、英語が通じなくてもなんとか気持ちを伝えようとするのが大切だと思いました。マットやマットの家族とコミュニケーションをとることができたときは、とてもうれしかったです。

アスペン

増子千咲

私は、1月5日に占冠村を出発しました。アスペンに行くまでは何本か飛行機を乗りついでいきました。アスペン



空港についたとき、アスペンのみんなと家族が迎えてくれました。

私のホームステイの先は、モリーの家族。アスペンは、3000メートルを超す標高です。占冠と比べたら高く、息がすぐきれるし、頭が痛くなりました。でも、モリーの家族は優しく、毎日水とお菓子を持たせてくれました。8日間、だったので、あつという間でした。その中で思ひ出はたくさんありますが、二つ紹介します。

一つ目は、カントリーデイスクールに行ったときのことです。休み時間にカントリーの池が凍っていたので、そこでアイスホッケーをしました。みんな滑って転んでいました。でも、すごく楽しかったです。すごくいっぱい動き

ました。その後飲んだホットチョコレートは、ものすごくおいしかったです。

二つ目は、サヨナラパーティの会場に行くまでの歩くスキーのことです。歩くスキーでは、私と優奈だけ遅くてとり残されました。二人で激突して転んでいました。すごく疲れたけど、とても楽しかったです。

今回私は、日本の代表としてアスペンに行きました。礼儀の大切さや自分たちの態度など、普段の生活について、常に考えて行動していかなくはならないと学びました。これから、がんばろうと思います。

このような機会をいただいたことに感謝しています。今回学んだことをこれからも生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

アスペン

山西創太

僕たち2年生は、1月5日にアスペンに行きました。アスペンに着いたときは雪が少なく、あまり寒くありませんでした。アスペン空港ではホストファミリーの方々が僕をあたたく迎えてくれました。

た。

生活習慣が変わったので、最初は慣れるのに大変でしたが、日をかさねるごとに慣れていきました。アスペンでは、いろいろなことを体験したり、日本との文化の違いを学んだりしました。

では、アスペンでびっくりしたことについていくつか書いてみます。まず、日本で考えられないことが、当たり前になっていたのでびっくりしました。例えば、学校では、お菓子を持っている子や音楽を聴いている子がたくさんいました。

また、食べ物では、ハンバーガーがすごく大きかったですし、日本より味があっさりしていました。意外でした。すごくおいしかったです。あと、僕が一番好きになった食



べ物は、サンドウィッチです。その中には、トマト、キャベツ、ピーフなどが入っていました。すごくおいしかったです。

ホストファミリーの方は、僕に親切にしてくださいました。ヘンリーは僕と一緒に遊んでくれたりわからないことを教えてくれました。またアスペンに行つてヘンリーとヘンリーの家族に会いたいです。

アスペンでは、いろいろな貴重な体験ができました。また、人の気持ちを理解すること、思いやりを持つことが大事だと学びました。ホストファミリーの方にもたくさん迷惑をかけたと思いますが、あたたかく接してくれました。これからは、アスペンで学んだことを生かせるようにしたいです。

今回このような機会を設けてくださった村の皆さん、本当にありがとうございました。心から感謝しています。

アイミスアスペン

向山 浩

アスペンの街の中でさえ標高が、旭岳の頂上より高い2400メートルと、高山病と



の闘いが予想されました。少し気分が悪くなった生徒もいました。生徒たちは概ね元気に過ごしていました。

まず驚いたのは、グッチやヴィトンなどが建ち並ぶ商店街からすぐアスペン山に繋がるゴンドラが運航され、目の前に壮大なスキー場が広がっていること。次に驚いたのは、私がホームステイした近くのスノーマススキーリゾートでは、なんとホテルやコンドミニアム、そして個人の別荘まで、実際に滑る斜面の間に多く建てられており、玄関開けたら1秒でスキー場という状態になっていたことです。

次にいろいろな学校を訪問させていただいて、学校によって教育方針・内容がそれぞれ異なり、多くのことを学ば

せてもらいました。

姉妹都市会議では、アスペン市は世界の多くの場所と姉妹都市関係を持つているが、その中でも占冠村との事業が一番うまくいっているとお褒めの言葉をいただいたことが大変うれしかったです。

ホストファミリーの皆さんにも大変良くしていただき、空港での見送りのときには思わず涙してしまいました。いろいろな面でお世話になり大変感謝しています。

生徒たちは、一生涯命英語で対応しようとしている反面、時々日本人だけで集まり、大きな声で日本語を発し、ゲラゲラ笑っていたときには多少閉口しましたが、あの異常な緊張感の中でのひと時の安らぎだったと思えば仕方ないことだったでしょう。

生徒たちにとって、この短い滞在だけでは、急に英語がうまくしゃべれるはずもありません。しかし、英語をもっとうまく話したい、もっと英語を勉強したいというきっかけになったことは間違いないと信じています。この素晴らしい事業は永遠に続いていくと欲しいと思います。

アイルビーバック！

アスペン

門間和代

「またいつか必ず、この素晴らしいマチに戻ってきたいと思います。またね。」そう、アスペンでスピーチしたのが2年前。今回は、二度目のアスペン引率となりました。

今回の訪問では、一度目の訪問の際にお世話になった方々に、いろいろな形で再会することができました。うれしいことに、たくさんの方が私のことを覚えてくれていて、「本当に帰ってきたね。」とあちこちで声をかけてくださいました。2年前の、しかも1週間ほどの滞在だったにもかかわらず、私という「外国人」の存在を覚えていてくれるなんて、それだけで大きな感動を覚えました。



前回の訪問に引き続き、今回もアスペンの人々は友好的でとても心があたたかいと感帰るときまで、大人も子どもたちもこやかに声をかけてくれました。コミュニケーションは、挨拶を交わすこと、ほほえみを交わすことから始まるなあと感じる毎日でした。

今回は、占冠中学校の7人の生徒が村の代表としてこの交流に参加したわけですが、7人は、アスペンでたった一人でホームステイすることになりました。占冠では、ごく当たり前の出来事になっていたかもしれないませんが、まだ中学2年生の子どもたちにとって、これはとてもすごい経験で、楽しみつつもきつと大きな緊張感の中で過ごしていたと思います。もしかすると、緊張感を感じる余裕すらなく、ただひすら必死に過ごしていた面もあったかもしれませんが。ときには、わがままが出てしまつて、ホストファミリーの皆さんに迷惑をかけてしまったこともありました。しかし、ホストファミリーの皆さん、またアスペン生に温かく見守られながら、7人はホームステイを終えるこ

とができました。

今回の訪問の間じゅういつも私たちのことを気にかけ声をかけてくれた皆さんから、人を思いやることの温かさを学びました。今後、私たちがいろいろな面で成長していくことが、この事業に参加させていただいたことへの恩返しになっていくと考えています。

最後に、私のホームステイについてですが、二つの家庭にお世話になりました。4日ずつの滞在となったので、どちらの家族とももつと一緒に過ごしたかったという思いを残して帰ってきました。いつか、また、今度は自分の家族と一緒に会いに行きたいと感じています。「このフレンドシップは、永遠だよ」。そんなことを言ってくれたアスペンの方々の言葉を胸に、またがんばっていきましょう。

今回の訪問に参加できたことを、心より感謝いたします。ありがとうございました。

